

# WELLNESS TOKEN

## ウェルネストークンエコノミー

ホワイトペーパー ver 1.1

# 健康×トークンエコノミー



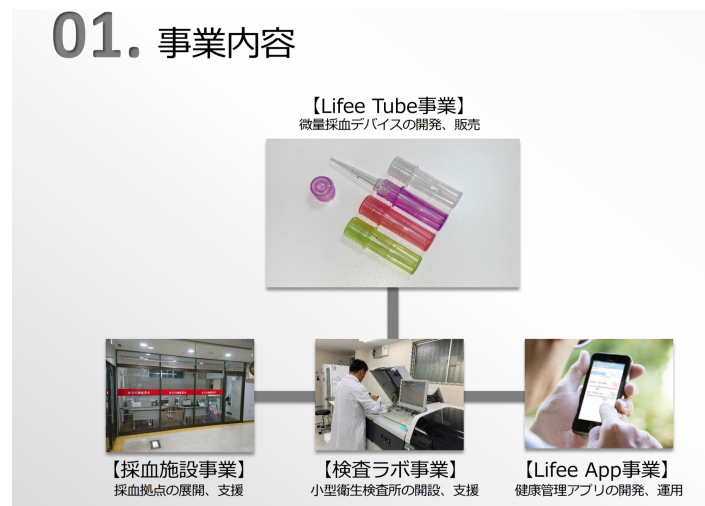
**AYANASU**  
**SHI GU RE**

# 目次

1. ウェルネストークンエコノミー
  1. ウェルネストークンエコノミーの本質
  2. トークンの循環
  3. 価値の最大化
  4. 個人への帰属
2. SDGs
  1. No3.すべての人に健康と福祉を
3. トークンエコノミーの設計と開発
  1. 基本設計
  2. システム開発
    1. ウォレットシステム
    2. バウンティシステム
    3. ウェルネスプール
4. 事業戦略
  1. バウンティによる健康への動機付け
  2. ウェルネスプールの利活用で個人への還元
5. トークンセール
  1. 募集要項
  2. アロケーション
  3. 資金使途
6. ロードマップ
7. プロジェクトメンバー
8. 提携企業

# マイクロブラッドサイエンスの事業紹介

## 01. 事業内容



## 02. Lifee Tube



## 03. 検査ラボの展開





## 1.ウェルネストークンエコノミー

## ウェルネストークンエコノミーの本質

我々は個人ひとりひとりが健康的な生活が続けるための活動を、成熟したインターネットとブロックチェーンの技術によるトークンエコノミーを通じて生涯において支援する。

多くのステークホルダーが潜在、顕在問わず健康に対して何かしら思いを抱いている。現代社会において完全なる健康を維持することはとても難しい。誰しもが何かしらの健康への不安を抱いて生活しているのが現状である。健康に違和感を感じてから行動を起こすことの方が、精神的、身体的、金銭的にもリスクが伴う。

しかし、健康を維持することは個人の努力によってでしか成し得ない。それをサポートする健康企業は、現代においては大きな市場を作り上げている。多くの健康企業は商売として利益優先で健康を支援する形を取っている。本当に個人に寄り添って健康を支援する健康企業は多くはない。それは構造上のサービスの設計に限界が存在するためである。多くの健康企業は利益優先での商売である以上、コストを増やすことで利益を減らすことはできない。

健康企業が提供する製品やサービス以外にも、手軽にできる微量採血検査などで早期に疾病を発見することでも健康を維持することが可能となる。しかし、日本では皆保険制度の充実や食品の品質向上などが、健康な体であることと錯覚して間違った認識になってしまい検査を行う動機付けが弱くなる。日本では年1回の健康診断で健康の良し悪しを判断するのが一般的である。世界においては、発展途上国はその機会すら整備されてない現状が多々ある。トークンエコノミーは社会構造上の課題を解決する役割も担っている。

このように健康でい続けることは、個人に対して金銭的、身体的、精神的に負担がとても大きい。本来、個人が健康でいることで利益を上げているステークホルダーは多く存在するのにも関わらず、それらの利益を個人へ還元することができていない。これだけITが発展しているにも関わらず旧態依然とした医療現場の仕組みで効率化ができていない。それは今現在の構造上でサービス設計に限界があるからである。

我々のトークンエコノミーが今までできなかった健康の価値が見える化する。健康行動に対してトークンで報酬を得ることで、健康の価値が定量化される。一人一人の健康になるようとする努力が見える化されることで、そこにはサービス設計上実現できなかった仕組みを構築することが可能となる。新たなサービスや製品によって、健康な個人に帰属する社会と経済が生まれる。健康市場は次のステージへと飛躍を遂げ、市場規模の更なる拡大が約束される。

我々はインターネットとブロックチェーンの技術を用いたトークンエコノミーによって、その構造自体を大きく変えることを目的としている。あらゆる業界の課題をトークンエコノミーによってゲームチェンジを起こそうとしているのである。その1つに健康を維持することを目的にした業界に対してアプローチをしている。それが本件のウェルネストークンエコノミーである。

## ウェルネストークンエコノミーの仕組み

### ① トークンエコノミーを下支えする ブロックチェーンの5つの機能

#### 1. 少額決済

#### 2. 即時入出金

#### 3. 耐改ざん性能

#### 4. 分散台帳

#### 5. スマートコントラクト

- ・どんな仕事でも必ず報酬を得る
- ・送金手数料が安い
- ・すぐに手元に報酬が届く
- ・モチベーションを維持しやすい
- ・ブロックチェーンで安全
- ・取引のデータが守られる安心感
- ・取引記録が見える事で安全
- ・信用と信頼が担保される
- ・契約がプログラムで書かれ平等
- ・誰が履行しても正当な結果を得る

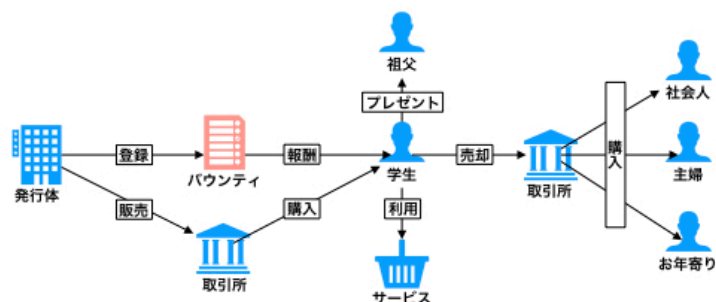
「公平で平等」「安心で安全」「省エネで高効率」な環境を構築できる

### ② トークンの循環により トークンエコノミーの経済活動が活性化する



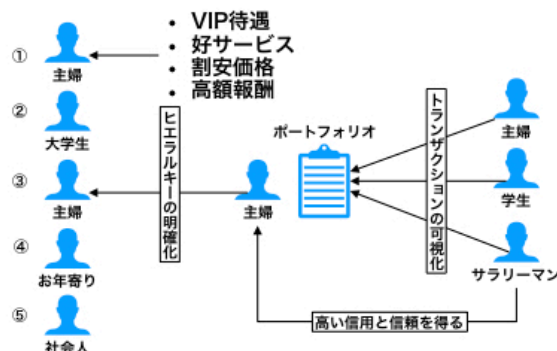
老若男女の誰でもが経済活動に参加して正当な報酬を得る事ができる

### トークンを利用するユーザーが増える事で トークンの価値が最大化する



トークンを発行する発行体が最大の利益を得るために、発行体はトークンエコノミーの持続的な発展を促す

### ③ 過去の信用と未来の信頼を可視化する事で 個人に帰属する社会と経済が生まれる



Ayanasu inc. Confidential

## トークンの循環

まず一番に考えなければならないことは、経済圏においてトークンが循環することで継続的に発展していくスキームを作る必要がある。そのためには、埋もれているステークホルダーを見つけ出し、全てのステークホルダーが正当な報酬を得る環境を作り出すことが必要不可欠である。多種多様な役割を持ったステークホルダーが存在することで、トークンが縦横無尽に循環を始める。これが理想的なトークンの循環である。

ウェルネストークンエコノミーでは、健康を維持したいステークホルダーがバウンティに積極参加できるスキームを構築する。現代社会において老若男女の全てが健康に対して何かしらの不安を抱いている。その不安を少しでも軽くするために、健康でい続けるための活動をバウンティを通じて支援する。バウンティはただのボランティア活動などではなく、参加することで必ず報酬を手に入れることができる。

バウンティによるインセンティブ設計で外発的な動機付けではあるが、多くのユーザーが参加して報酬を得ることができる。トークンエコノミーでは、どんな小さなアクションでも必ず対価とし

での報酬を得ることができる。老若男女が平等にバウンティに参加して報酬を得ることが可能となるため、多種多様なバウンティが存在する。そのため、ウェルネストークンエコノミーではウェルネストークンの流通量が増加することで経済圏の勢いが増す事になる。

---

## 価値の最大化

ウェルネストークンエコノミーにおいて、トークンの流通量が増えることは多くのステークホルダーが経済圏に参加していることを表す。多くのユーザーが何かしらの形で、ウェルネストークンエコノミーに貢献している。そこには、ウェルネストークンに対しての需要と供給が生まれている。トークンの供給には、主にバウンティで得た報酬を取引所でトークンを法定通貨と交換することが挙げられる。また、トークンの需要には、バウンティを作成するための報酬原資を必要とするために取引所で法定通貨とトークンと交換することが挙げられる。

価値を最大化する手段の大きな1つとしてバウンティがその中心的な役割を果たすことになる。バウンティを健全に運営することで、バウンティに参加して成果を残すことで報酬を得るステークホルダーと、バウンティを作成して報酬を支払うことで対価を得るステークホルダーの2つの側面が生まれる。これらの関係性が需要と供給のバランスとなる。

この需要と供給のバランスを発行体である我々がプロデュースする事で、ウェルネストークンの価値を最大化するための努力をしなければならない。そのためには全てのステークホルダーに対して、良質なバウンティを企画し続けてウェルネストークンを魅力あるトークンとする。

---

## 個人への帰属

バウンティへ参加することでポートフォリオが充実する。ポートフォリオは健康になる事でインセンティブが発生するトランザクションによって蓄積される。蓄積されたトランザクションは過去の信用として蓄積される。未来の信頼とは過去の信用によって成立する。よって、ポートフォリオが充実しているステークホルダーは、健康へ関心が高く自身の健康のために積極的に精神的、身体的、経済的にも活動を惜しまない。ウェルネストークンエコノミーに参加しているステークホルダーは、良質なポートフォリオを持つ個人を歓迎する。個人に帰属する健康維持を証明しているトランザクションから、個人は様々な恩恵を受けることができるようになる。

バウンティのトランザクションの蓄積によるポートフォリオは、自然とウェルネストークンエコノミー内でのヒエラルキーを構築する。ヒエラルキーの上位にいるステークホルダーは、ブロックチェーンによってトランザクションを証明されているため、誰から見てもそのポジションは正当であると認められる。このことは、頑張ったら頑張った分だけ評価され、ほかのステークホルダーからも良質なサービスや製品を提供されることにつながる。

信頼のおける第3者を必要とせずに、経済圏の中で地位を確立できる。いいねの数や友達の数ではなく、ウェルネストークンエコノミー内での健康を維持するための活動に参加して成果を残したことによって得られる地位になる。ウェルネストークンエコノミー内での活動の全てが必ず見える形として個人に帰属することになる。より個人にフォーカスされた経済と社会を我々は作り上げていく。

## 2.SDGs

## SDGs



## No.3 すべての人に健康と福祉を



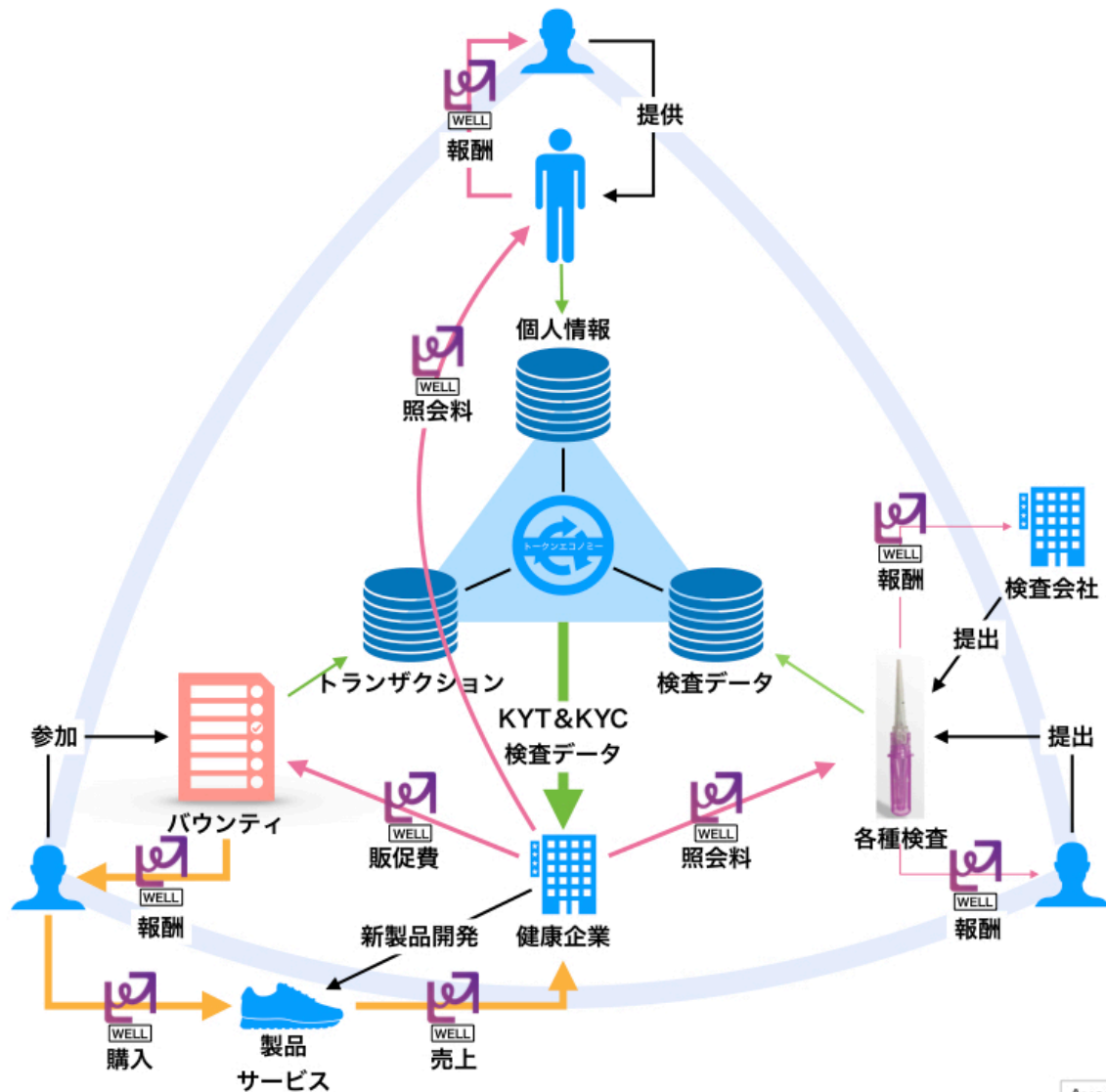
我々のトークンエコノミーでは外発的動機付けとなるインセンティブの設計により、健康に対して積極的に意識づけを行い習慣化させることが可能となる。インセンティブが発生するバウンティには、老若男女の誰でもが分け隔てなく平等に参加することができる。バウンティに参加することで得られた報酬のトランザクションは全てブロックチェーン上に記録される。ブロックチェーンでは記録を改ざんすることが難しい仕組みとなっているため、全てのステークホルダーが安心してバウンティに参加して正当な報酬を得ることができる。第3者による信頼を得なくても、トークンエコノミーが過去の信用を蓄積して、未来の信頼へとつなげることができる。それは世界においてどんな境遇の人々であろうとも、トークンエコノミー内での活動は不可侵であり、その個人に帰属すべき成果となる。健康であり続けることを目指す人々に、我々はトークンエコノミーを通じて健康と福祉を支援することを約束する。

### 3.トークンエコノミーの設計と開発



# トークンエコノミーの設計と開発

## 基本設計



Ayanasu inc. Confidential

### 3種のデータ

1. トランザクション
2. 検査データ
3. 個人情報

#### トランザクション

インセンティブ設計によるKYTとしてバウンティに参加することで蓄積されるデータ。ステークホルダーが能動的に参加する事で得られるアクションデータ。このデータは検査データや個人情報とは違い、動きのある購買行動につながる生きた情報となる。多くのスポンサーはこのKYTによるポートフォリオからのヒエラルキーによってセグメントを行い新しい広告による販促活動を行うことになる。



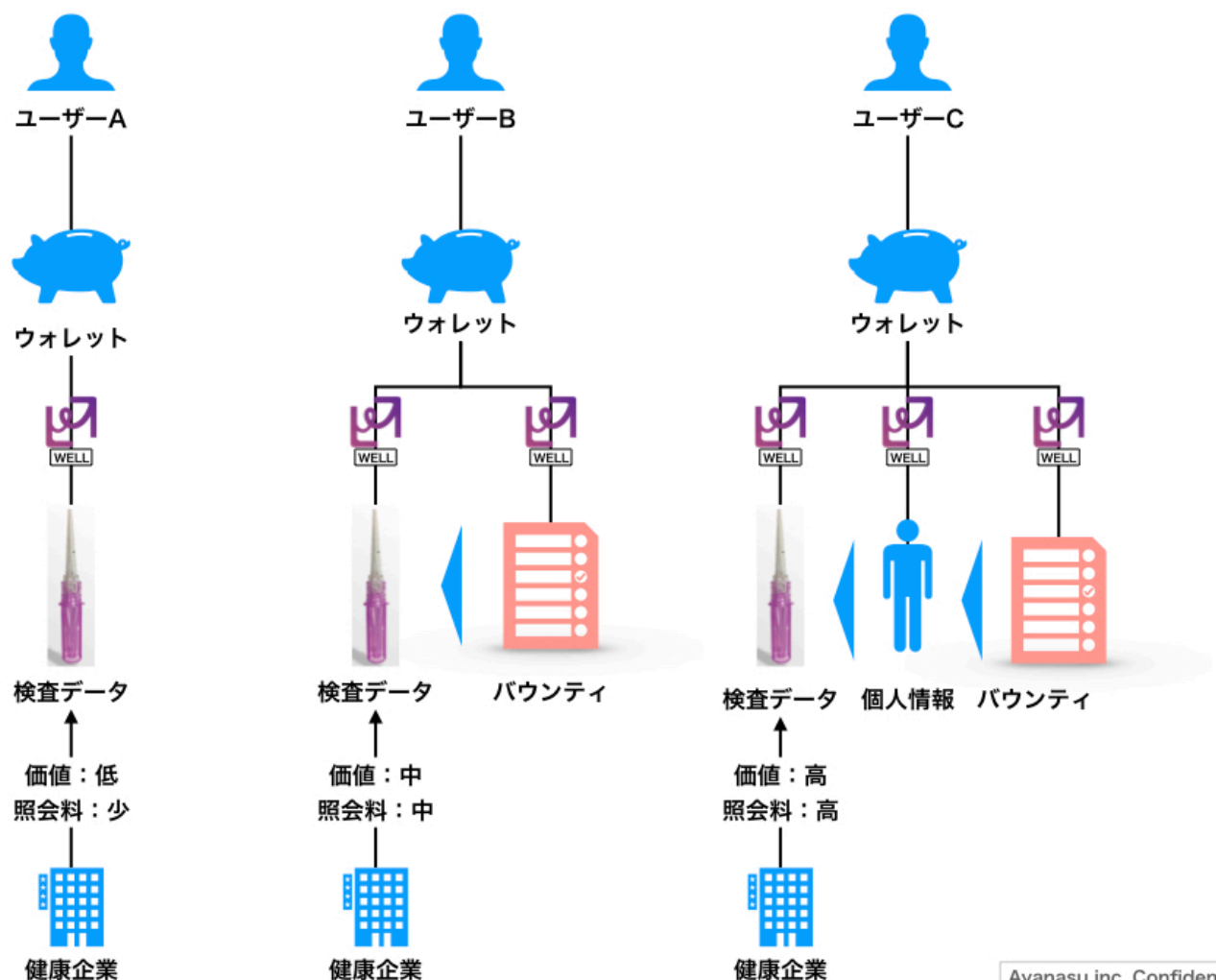
## 検査データ

血液検査データを始めとした各種検査データを個人情報とは関係なくブロックチェーン上に記録する。数百万件の検体としてのデータが集まることで価値が生まれる。健康、スポーツ、創薬、製薬、医療メーカーなどの企業がウェルネストークンを購入して、ウェルネストークンで照会料を支払う。検査データを提供したユーザーへは、照会料がスマートコントラクトで還元される。

## 個人情報

名前、生年月日、住所などの個人を特定し得る情報。個人情報の提供頻度などに応じてウェルネストークンで報酬を支払う。個人情報を多く提供するユーザーへは、検査データなどの照会料が割り増しになるなどの特典をつけることになる。個人情報はセンシティブな情報でもあることからユーザーが任意で選べることが重要。

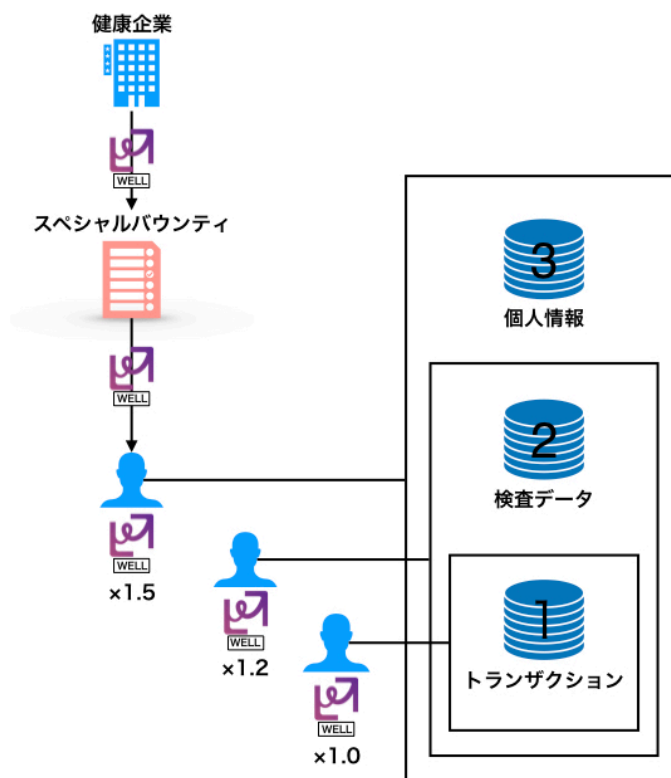
## データの相乗効果の3段階のスキーム



Ayanasu inc. Confidential

1. バウンティに参加することで得られるトランザクションデータは、健康になりたいという顕在化されたもしくは潜在的な欲求に対して、インセンティブという外発的動機付けによって行動を促す。
2. 検査データによって、健康になるために活動したトランザクションデータへの信頼度を上げるためのエビデンスとして活用される。過去の信用をこのエビデンスによって、未来の信頼への価値を向上させることになる。
3. 個人情報が追加されることで、商行為としての価値が飛躍的に向上する。健康企業などがウェルネストークンエコノミーへ参加する際の広告効果に大きな期待を持てることになる。また、この広告は今までのマクロを対象にしていた広告とは違い、よりOne 2 Oneでの広告効果を期待できる。

## インセンティブ設計



Ayanasu inc. Confidential

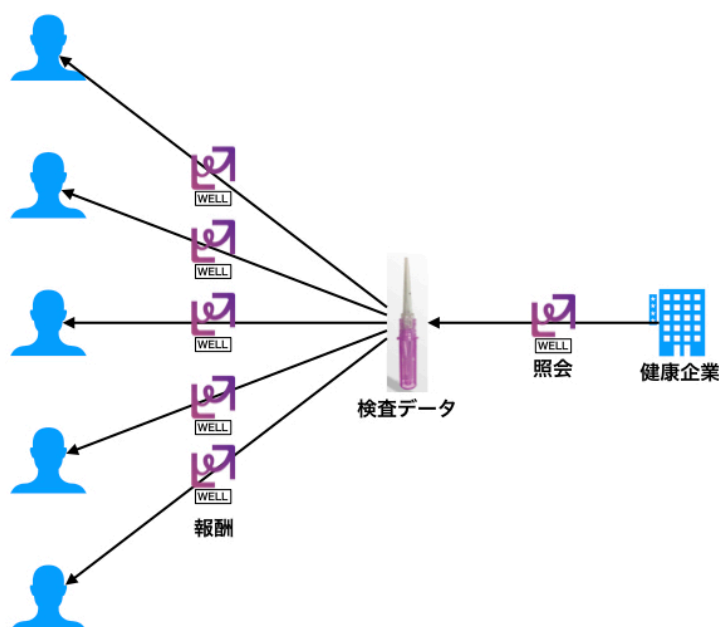
1. バウンティに参加してトランザクションを記録してインセンティブが発生
2. 検査データを提供してインセンティブが発生
3. 個人情報を提供してインセンティブが発生

この3つのインセンティブのトランザクションを重視する。満遍なく3つのトランザクションを持つステークホルダーのポートフォリオがヒエラルキーの上位として存在することになる。

そして、バウンティのトランザクション、検査データ、個人情報の順でデータの価値が重要となる。その価値に合わせて報酬にも重み付けがなされて、報酬量そのものにも変化が現れる。

つまりは、バウンティだけや検査だけでトランザクションを蓄積しても限界があることになる。バウンティによって能動的なアクションを蓄積して、そのアクションのエビデンスとして検査を行い、個人情報を提供することで健康企業からより良いサービスや製品の情報が提供されることになる。自身と周りの健康を労わり健康を持続することを目的としているウェルネストークンエコノミーではそのバランスが重要になる。

## データの商用利用によって得られた売上の一部が個人に還元される



Ayanasu inc. Confidential

個人から提供されたデータが利用されて新製品や新商品が開発され市場で販売された場合に、それに貢献したのは健康なデータを提供した個人であることは間違いない。健康企業もそれを理解はしているが、現在の仕組みでできることは新しい製品を販売して手に入ってもらうことがサービス設計上の限界となる。しかし、トークンエコノミーでのスマートコントラクトであれば、個人が提供したデータが照会される度に、トークンが照会料として個人のウォレットへ送金されることになる。

これこそが、少額の決済を可能とし、送金にほとんど手数料が掛からないトークンエコノミーの仕組みである。サービス設計上実現不可能だった仕組みをトークンエコノミーは可能とする。こ

れは分かり易い一例でしかなく、トークンエコノミーでこの仕組みを追求し、個人に帰属する経済と社会を作ることが可能となる。

---

## コアになるAとB

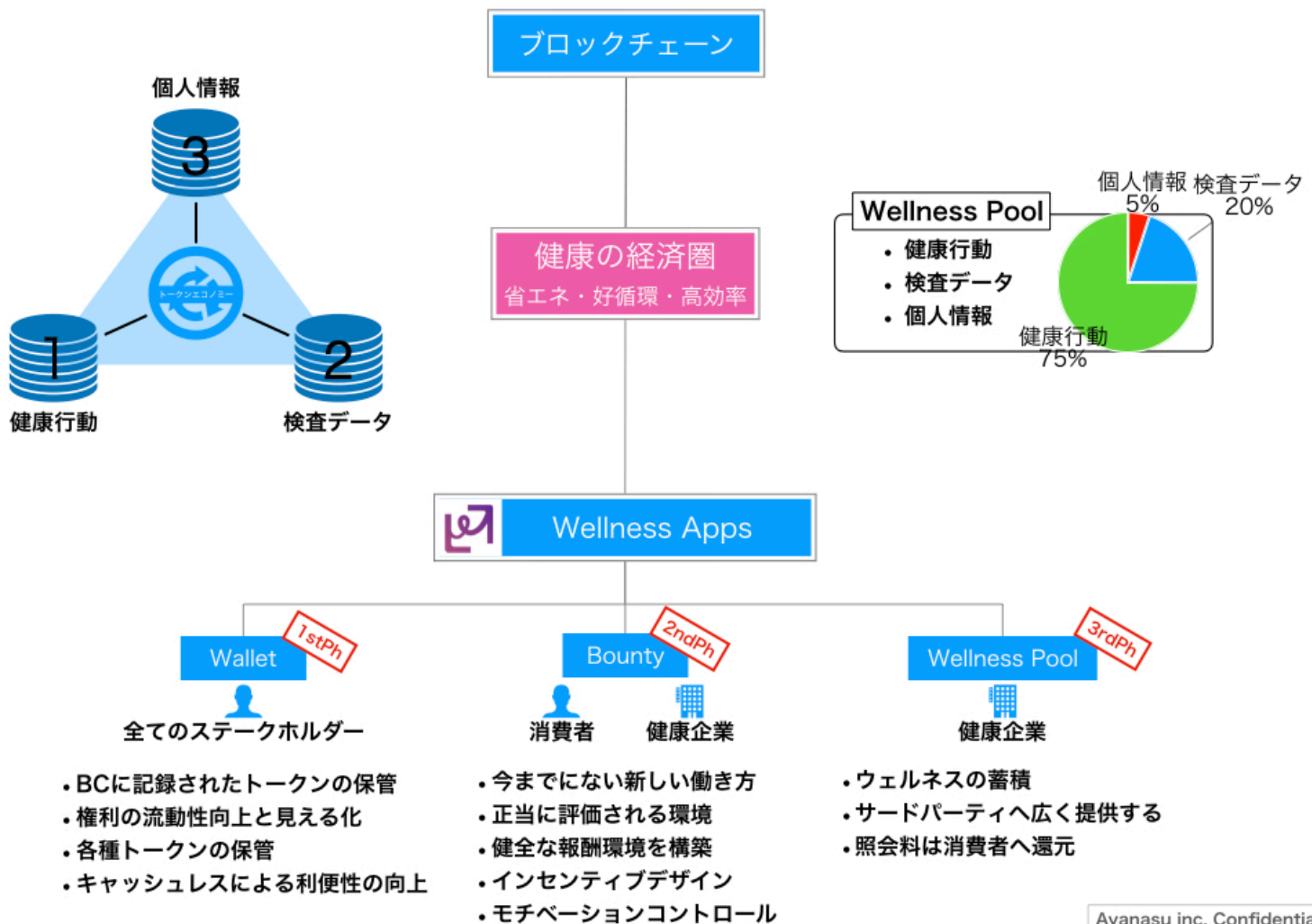
A=ユーザーとB=健康企業。ユーザーはウェルネストークンを取引所から直接購入する機会は多くない。ウェルネストークンを健康企業が購入して、バウンティの原資として投資する。バウンティに参加するユーザーは得られた報酬で、血液検査や健康企業が提供しているサービスや製品を購入する。残念なことにユーザーは自助努力だけでは健康になれない。健康になるためには健康企業からの品質の良いサービスや製品にサポートされなければ成立しないの現状である。

ユーザーと健康企業間での循環が重要。ウェルネストークンエコノミーは、ユーザーと健康企業の関係性を新たなステージへ昇華させる。ユーザーは健康になるための良質なサービスや製品を得る。健康企業は販促費として広告展開することで、自社のサービスや製品を売り込むことができる。

我々のトークンエコノミーではユーザーと健康企業の単純な商行為の域を出た関係性が構築される。そこには、企業が今まで個人をOne of Themで見てきた利益優先だけの市場という箱ではなくなる。個人の過去の信用と未来の信頼を直視できる環境であることから、One 2 Oneでの商行為が行われるようになる。これはROIを大幅に高める可能性があることを示唆している。

## システム開発

## WELLNESS Concept



Ayanasu inc. Confidential

## ウォレットシステム

トークンエコノミーの中で価値の媒介手段であるトークンを適切に安全に管理するためのウォレットシステムは必要不可欠である。セキュリティトークンの長期保管や売買の受け渡し、ユーティリティトークンの支払いや報酬の受け渡しとして、ウォレットは普段から頻繁に利用する。とても高いセキュリティを必要とするため、技術力の高いエンジニアが開発する必要がある。

## バウンティシステム

主にユーティリティトークンであるウェルネストークンを報酬として受け取るためのアクションリストの集合体として機能する。全てのステークホルダーは誰でも自由にバウンティに参加して、トークンエコノミーの価値を最大化するための活動に貢献することで正当な報酬を得ることができる。多くのステークホルダーが参加することで、ウェルネストークンの循環が促されることで活動が活性化する。バウンティシステムこそが、トークンエコノミーの発展の礎である。ステークホルダーはバウンティに参加して得た報酬のトランザクションをブロックチェーンに記録するこ

とで、ステークホルダー個人のポートフォリオとなる。このポートフォリオが個人へ帰属するためのエビデンスとなる。バウンティはトークンエコノミー内での活動においてとても重要な役割を担うことになる。

---

## ウェルネスプールシステム

健康行動によるトランザクションの蓄積、定期的な検査データの蓄積、個人情報の蓄積。ウェルネスプールでは、個人が健康であるために行った活動がブロックチェーン上に記録され安全に管理されます。照会料を支払えば誰でも簡単にデータにアクセスすることが可能となります。照会料はデータ提供者へ瞬時に還元されます。照会料はウェルネストークンで支払います。

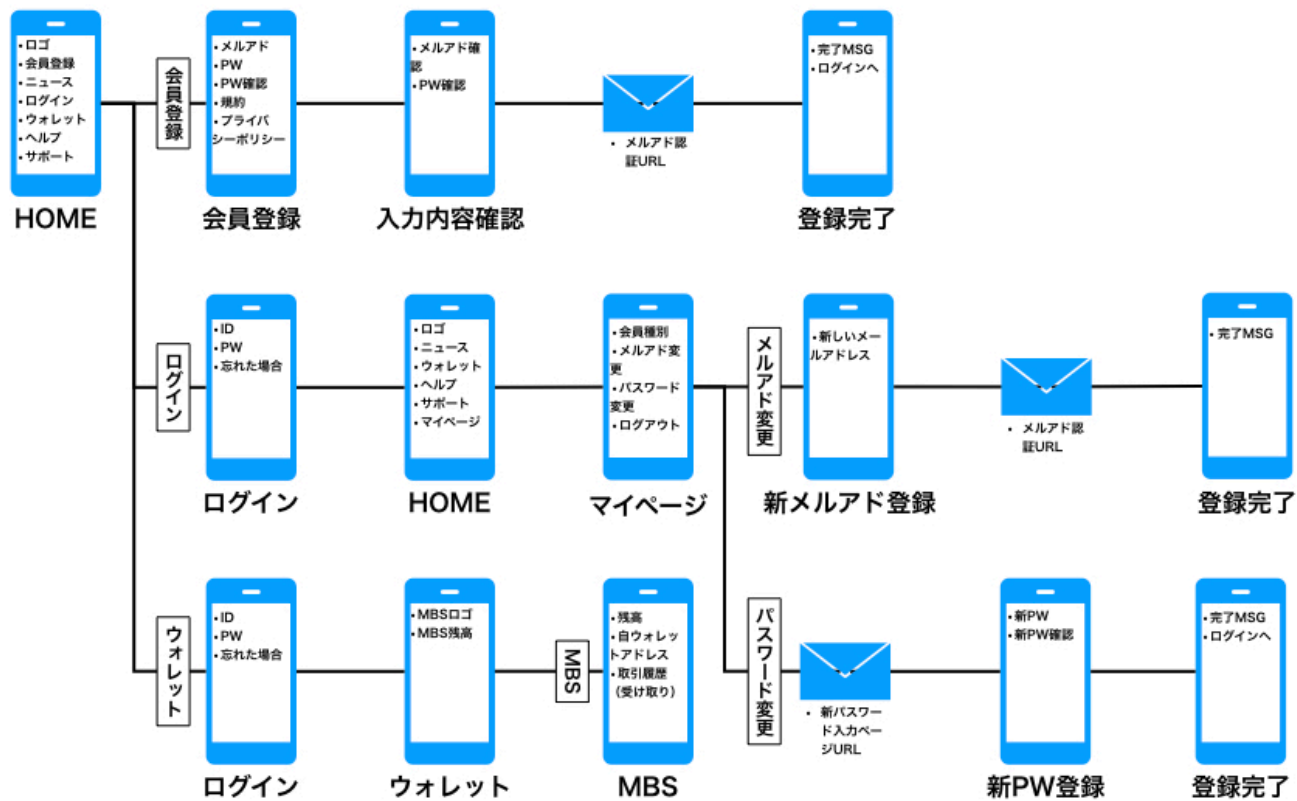
ウェルネスプールでは、ID情報は全てウォレットアドレスを一意として管理されるため、個人情報を提供しない場合は、データ提供者個人と直接紐付くことはありません。

ウェルネスプール内の情報の75%以上は、トークンエコノミー内で実施されるバウンティに参加した健康行動が記録されます。残りの検査データや個人情報は、個人のポートフォリオの価値を高めるために利用されます。重要なのは、健康になろうとする意思を持ってバウンティに積極的に参加して活動した記録になります。

## 1st Phase Wallet

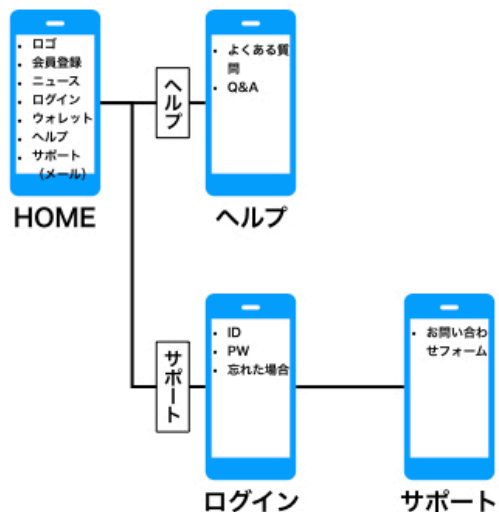
MVP

1stPhase



MVP

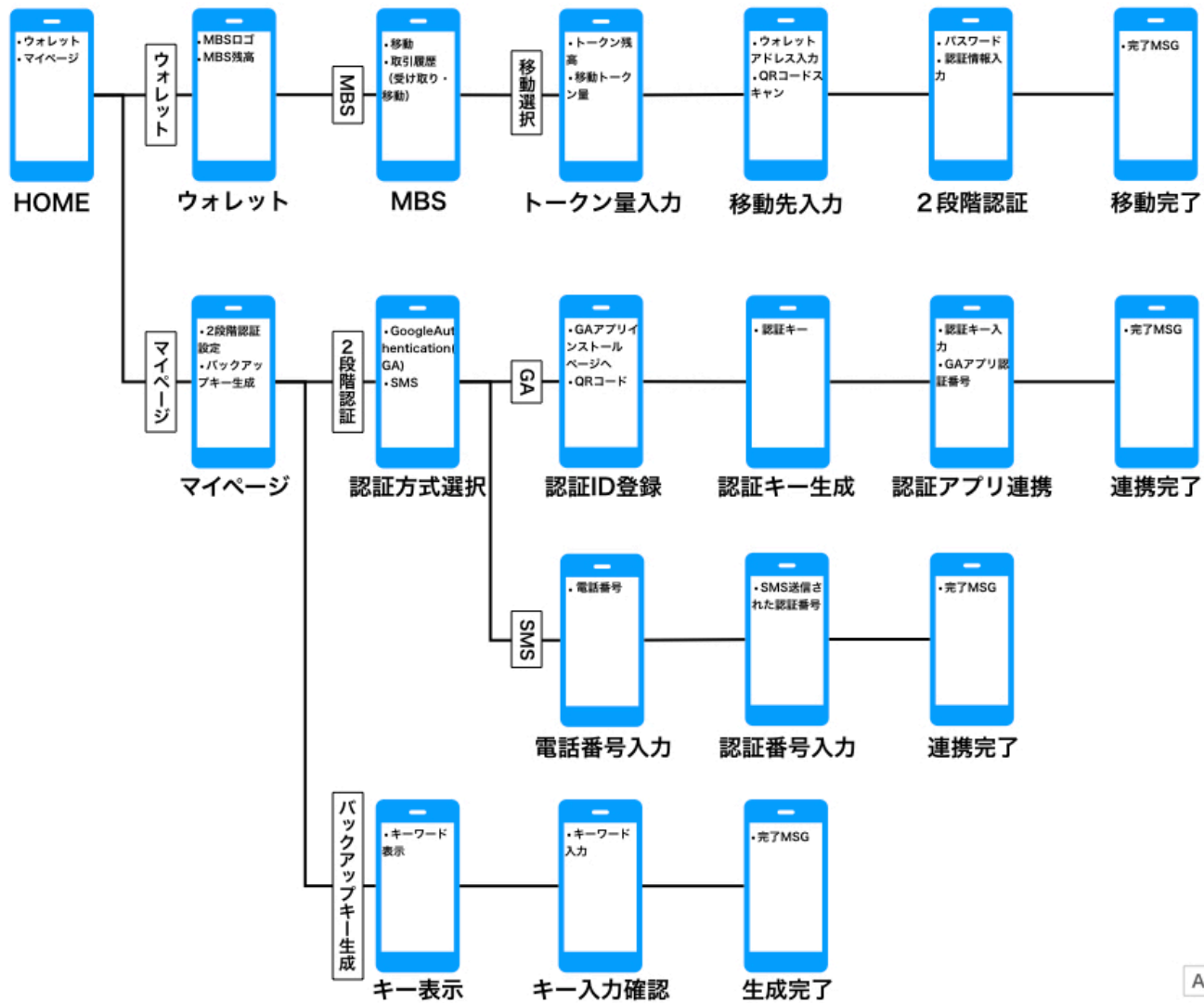
1stPhase





## フルオプション

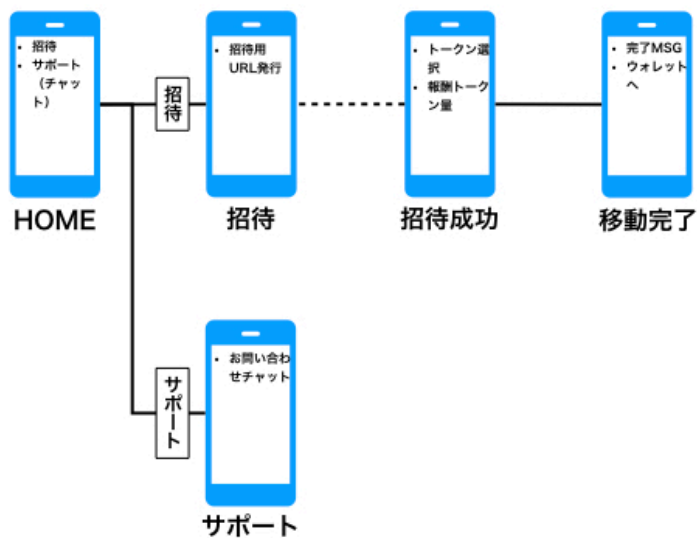
1stPhase



Ayanasu inc. Confidential

## フルオプション

1stPhase

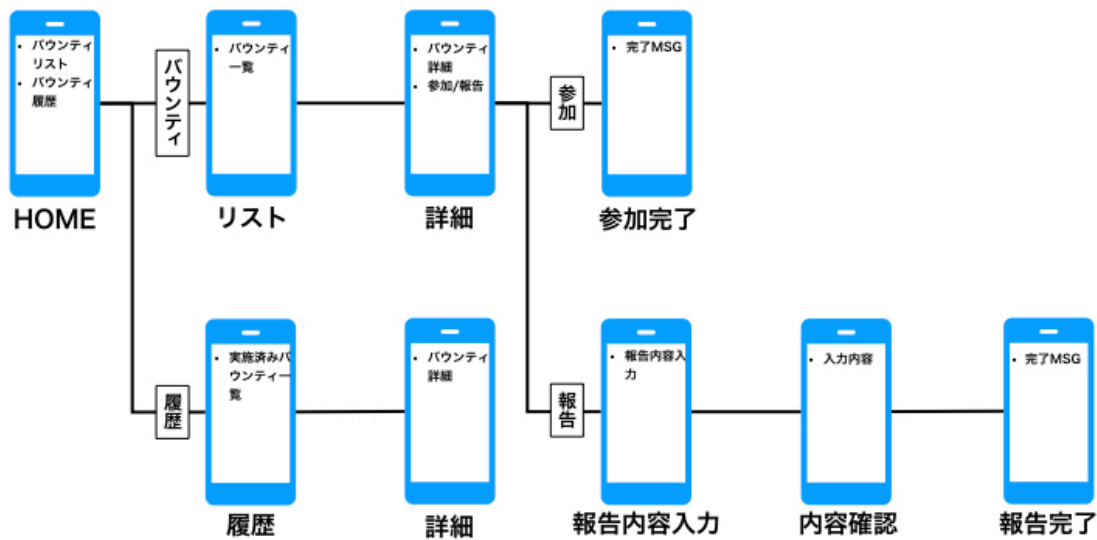




## 2nd Phase Bounty

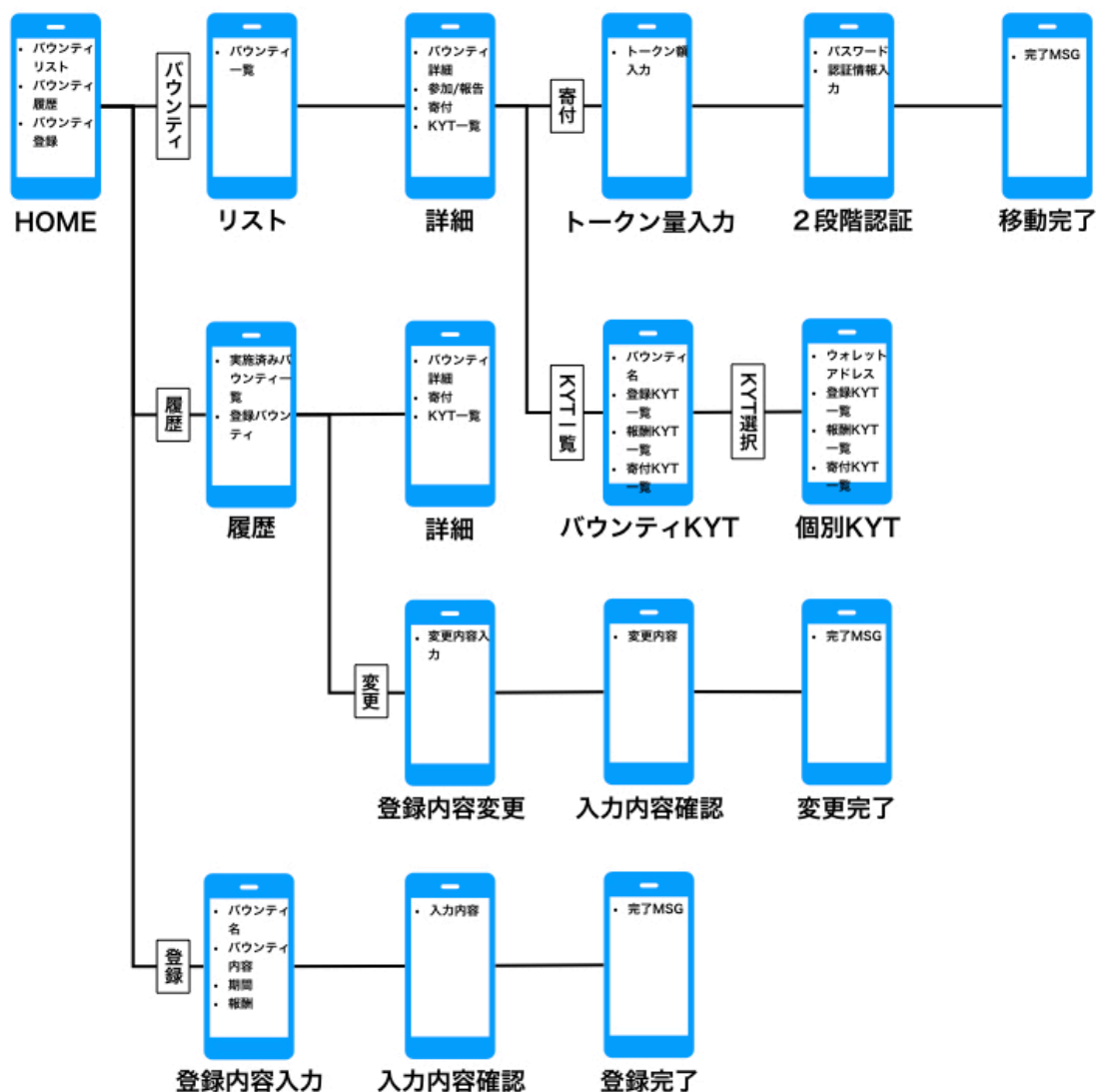
## MVP

2ndPhase



## フルオプション

2ndPhase



## 4.事業戦略

# 事業戦略

## バウンティによる健康への動機付け

---

### バウンティの目的

ウェルネストークンを全てのステークホルダーの間で循環させ正当な報酬を支払う。  
良質なバウンティをステークホルダーに提案することでトークンの循環を促す。

---

### ステークホルダー

- ・ 健康な人
- ・ 健康に不安のある人
- ・ 不健康に自覚のある人
- ・ 不健康に自覚のない人
- ・ 血液検査運営会社
- ・ 医師
- ・ 漠然とした周りの人
- ・ 健康に関心のない人
- ・ 健康企業
- ・ バウンティハンター
- ・ バウンティメイカー

---

### 3つの基本的な循環スキーム

1. 健康になるための努力をすると報酬がもらえる
2. その報酬で健康で居続けるためのサービスを受けることが出来る
3. 健康なユーザーはお得なサービスに参加できる

## Phase1 「健康になるための努力をすると報酬がもらえる」

ウェルネストークンでの循環を促すために、健康になるための努力すると報酬がもらえるバウンティを用意して参加させる。ウェルネストークンが循環することで、多くのユーザーがインセンティブという外発的動機付けによって健康への関心が高まる。

- ・発行体が持ち出し予算で販促費としてトークンを予算化してバウンティを企画して参加させる。自己資本によるバウンティ。
- ・そこにステークホルダーが興味をもって集まることでサードパーティーが興味を持ち始める。
- ・バウンティに対してのスポンサーを集める。スポンサーからの予算でトークンを原資としたバウンティを企画する。他人資本によるバウンティ。
- ・バウンティはFacebookのターゲティング広告などでバウンティをLPとして集客する

### バウンティ例

- ・微量採血検査でのD判定のユーザーへ、健康を応援する目的でウェルネストークンをプレゼント
- ・自身の血液検査の結果をSNSへシェアする
- ・健康になるために日々行っていることをSNSへシェアする

## Phase2 「その報酬で健康に近づけるためのサービスを受けることができる」

バウンティに参加するなどして得た報酬の使い道を明確にすることでモチベーションを維持することが出来る。現金に換金することはできないが、それ相当以上の価値あるコトやモノと交換できれば納得感が生まれる。

- ・ウェルネストークンで血液検査を受けることができる。
- ・ウェルネストークンでオンライン診療サービスを受けることができる。
- ・ウェルネストークンでできる事を増やし続ける。ステークホルダーのモチベーションを維持する。
- ・将来的には交換の手段の1つとして国内の取引所への上場も視野に入れている事を宣言する。

### 交換例

- ・血液検査
- ・オンライン診療サービス
- ・浅草農園のECサイトで利用

## Phase3 「健康なユーザーへはお得なサービスに参加できる」

頑張ったら頑張った分だけ正当な評価と報酬を受け取ることが出来る仕組みをつくる。ヒエラルキーを明確にすることで、自身のポジションの確認と誰から見てもそれが証明される。

- ・ヒエラルキーの上位ユーザーへのスペシャルオファーをスポンサー企業と企画する

- ・ヒエラルキーの下位ユーザーへのスペシャルオファーをスポンサー企業と企画する
- ・健康企業へのスポンサー営業を行う。今までの広告とは違い、能動的にアクションを起こしたユーザーへの宣伝となることはコンバージョンにインパクトが出てくる。

#### 企画例

- ・スポンサー冠でのバウンティハンター大賞を企画する。この期間内で最も頑張って健康になる努力をしたユーザーへのプライズとアワード企画。
- ・スポンサー冠でのパーティーという名のセミナーに招待される。新しいサービスや製品などに安く体験や購入できる権利を手に入れることができる。

## アクセラレーション「バウンティメイクプログラム」

バウンティへの参加実績がある一定のラインを超えるとバウンティメイクプログラムへ参加することができます。バウンティを企画して創る側になれます。良質なバウンティを企画して全てのステークホルダーへ正当な報酬が支払われるしくみへ貢献することができます。

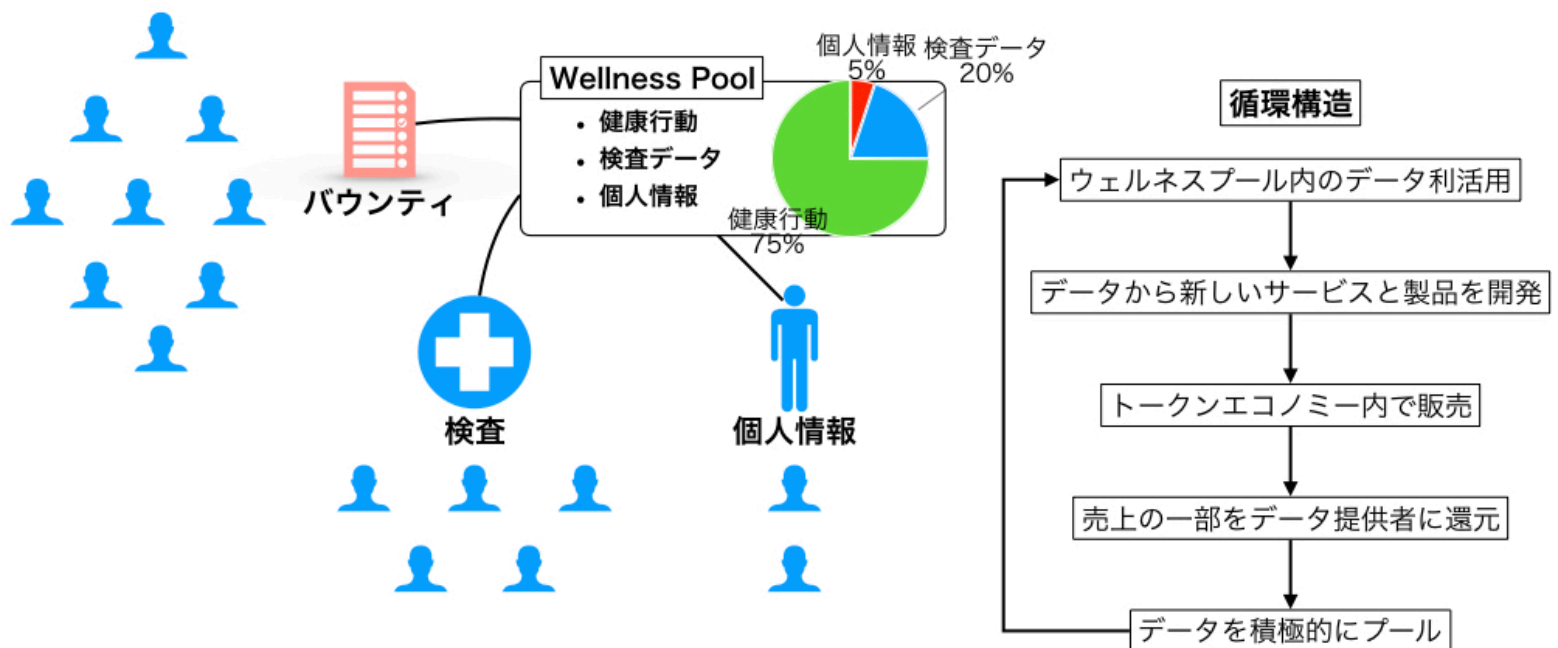
良質なバウンティが資本力のある健康企業の目に留まれば、スポンサーが付くことになります。スポンサーのついたバウンティには、バウンティを作ったユーザーにも報酬が支払われます。報酬は今後ウェルネストークンが日本国内の仮想通貨交換業である取引所へ上場することで法定通貨と交換すること可能となります。（※現在複数の取引所と上場に向けて協議中で上場時期は未定。）

バウンティメイカーとして有名になることも。ユーチューバーなどの個人の能力によって生計を立てることと同じように、今後はバウンティメイカーも注目される職業のひとつになります。

## まとめ

我々の事業戦略はシンプルにPhase1から3をひとつのサイクルとして適宜回し続ける。報酬の仕組みを考え、報酬が使える仕組みを提供し、頑張っている個人にフォーカスする。最初は、小さな規模や少数の参加者で始まるが、トークンの流通量が増えるにつれて、ステークホルダーからの期待は高まりそれ相応の対応が必要となる。トークンの循環こそが経済の根幹であり、発行体である我々が常に考え続けなければならないこととなる。

## ウェルネスプールの利活用で個人へ還元



Ayanasu inc. Confidential

### ウェルネスプールの目的

データ提供者が正当な報酬を得る。

データの提供から利活用、新商品の販売、提供者への還元までをトークンエコノミー内で完結させる。

バウンティによる健康行動のデータに重きを置いてプールする。

### トークンエコノミー内で完結するための循環構造

#### データ提供

バウンティ、検査、個人情報の提供に関して正当な報酬を得る。データ提供者は正当な報酬を得ることができる。バウンティに参加して健康行動のデータ、検査を実施して検査データ、個人情報の提供、その全てで老若男女の誰でもがトークンで報酬を得ることができる。

#### 新商品の開発

健康企業はプールされているデータへの照会料をトークンで支払うことでデータを活用することを許可される。支払われた照会料はデータ提供者へ還元される。

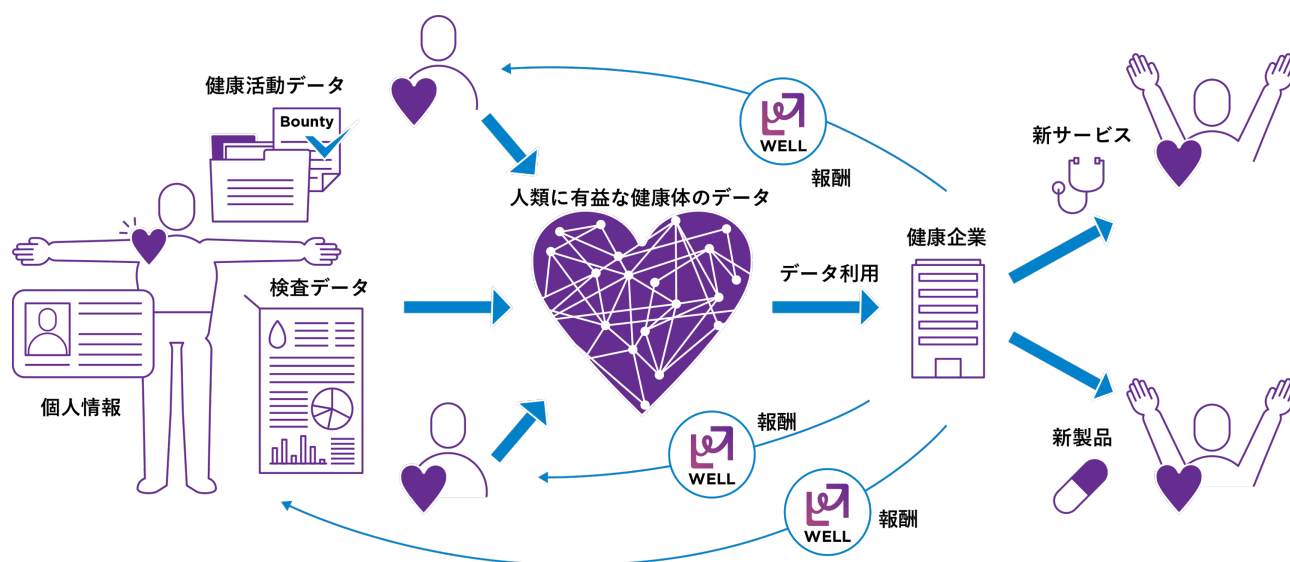
#### 新商品の販売

トークンエコノミー内で販売される。購入者はトークンで支払う。

## 売上の還元

商品を購入する際に支払われたトークンの一部がデータ提供者へ還元される。データ提供することで経済合理性が生まれることから、積極的にデータを提供しようとするモチベーションが生まれる。

## まとめ



トークンエコノミー内では全てのステークホルダーへ正当な報酬が支払われる。これが、原理原則である。トークンを利用した取引において、どんなに少額な支払いであっても、どんなに支払い先が多数いたとしても、スマートコントラクトにより瞬時に履行される。

今までの仕組みで、実現しようにも支払い手数料と信頼のおける第3者へのコストが掛かり過ぎていた。支払い手数料と信頼のおける第3者を必要とせずにステークホルダーは報酬を得ることができる。本来はデータ提供者には多大なる貢献があったにも関わらず、設計上の限界から対応できずに無視してきた。これらを我々がブロックチェーン技術とトークンエコノミーによって解決する。

全てのステークホルダーはデータ提供の報酬から始まり、データ照会の報酬、データを利用してできた製品やサービスを販売した利益の一部までもがトークンで得ることが可能となる。ステークホルダーは我々のトークンエコノミーへ参加することで、これらの恩恵を受けることができる。

健康企業も本来払うべき報酬を支払うことで、消費者との関係性も変わる。そこには経済合理性が生まれるため、製品やサービスの向上に消費者が積極的に参加することに繋がる。今までの抽象的なアンケートやマーケティングの結果だけではなく、バウンティを通じて健康行動を促進することで、より良いデータがプールされる。それを利用することで新しいステージへと移ることが可能となる。

トークンエコノミーによって、健康にまつわるあらゆるモノゴトがトークンを通じて循環を始める。



## 5.トークンセール

# トークンセール

## トークン概要

トークン名称	Wellness Token
発行体	MBS LABTECH PTE. LTD.
総発行量	10,000,000,000
シンボル	WELL
ブロックチェーン	Stellar ( <a href="https://www.stellar.org">https://www.stellar.org</a> )
承認システム	Stellar Consensus Protocol
イシューアードレス	<u>GASBV73W53EVZEIRVTMQ7RRVFORAPMDD</u> <u>FSEC4WVNJX2GFLBKNPXZTAEG</u>

## 募集要項

### 第1次募集

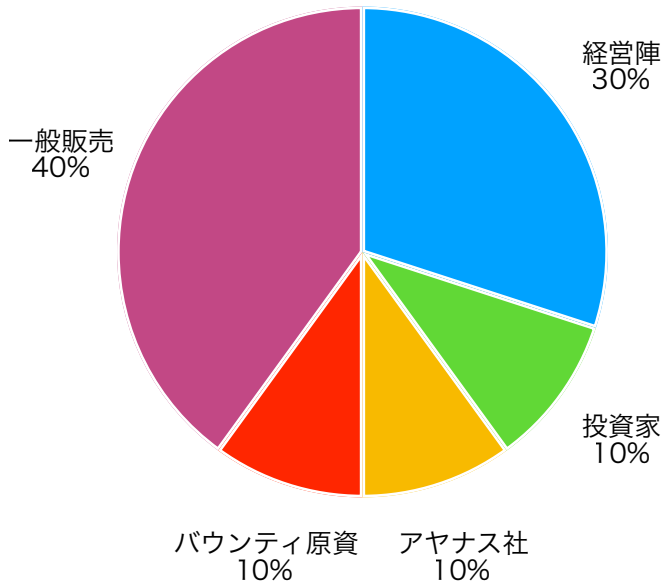
募集量	1,000,000,000
募集形態	指定した取引所での上場
支払い受付方法	BTC、ETHのみ
取引所	別途お知らせ
開始時期	2019年10月より

### 第2次募集

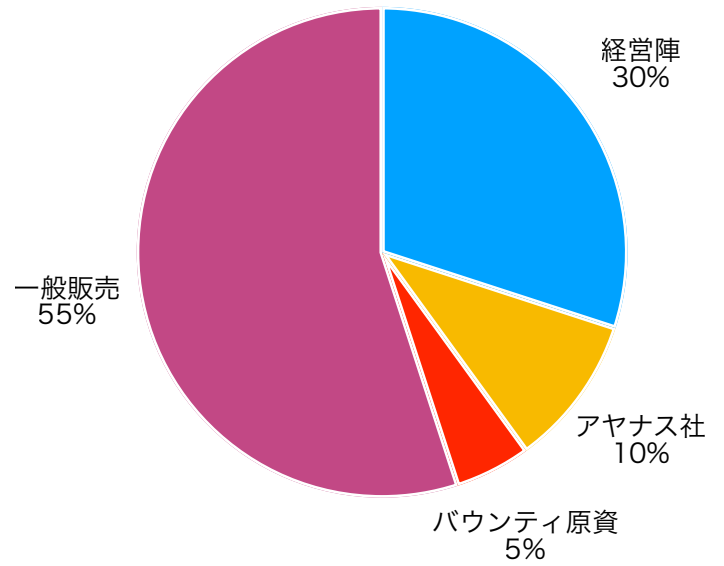
予定はありません。

# アロケーション

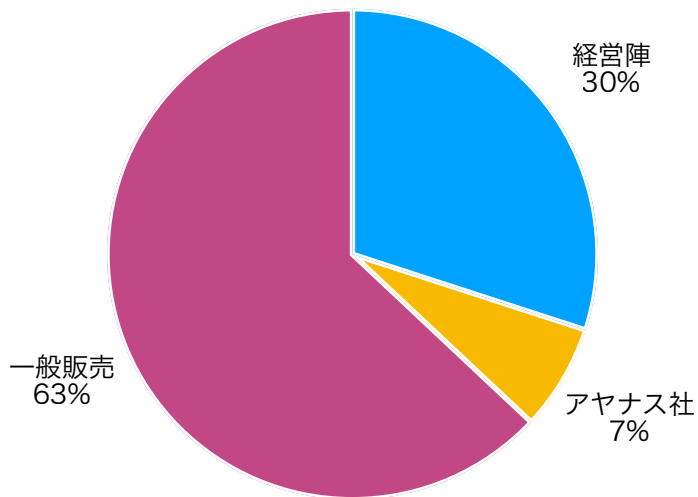
1年目



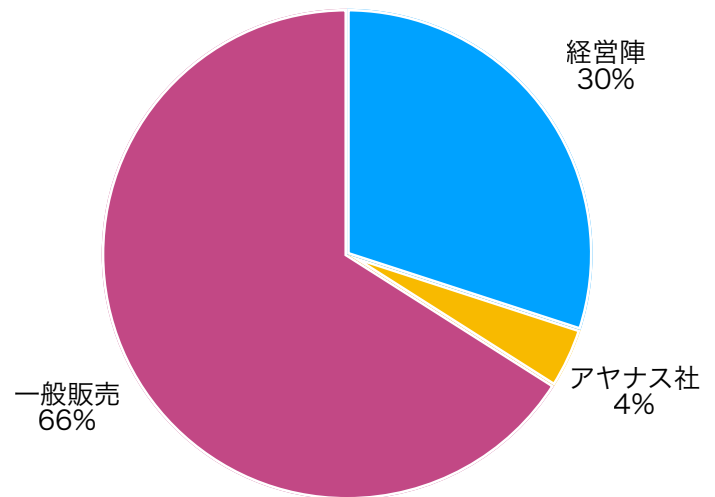
2年目



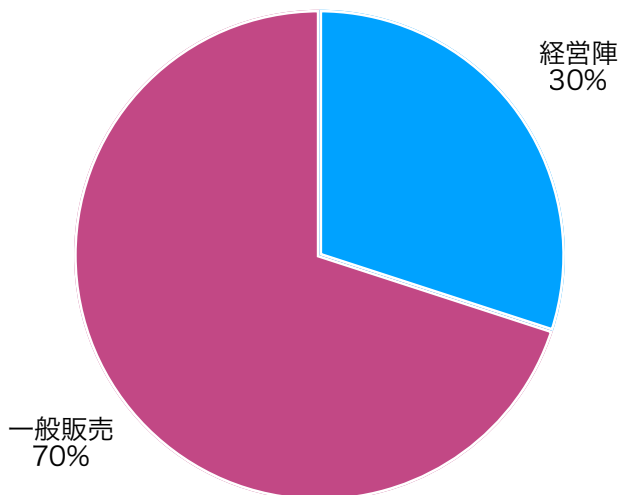
3年目



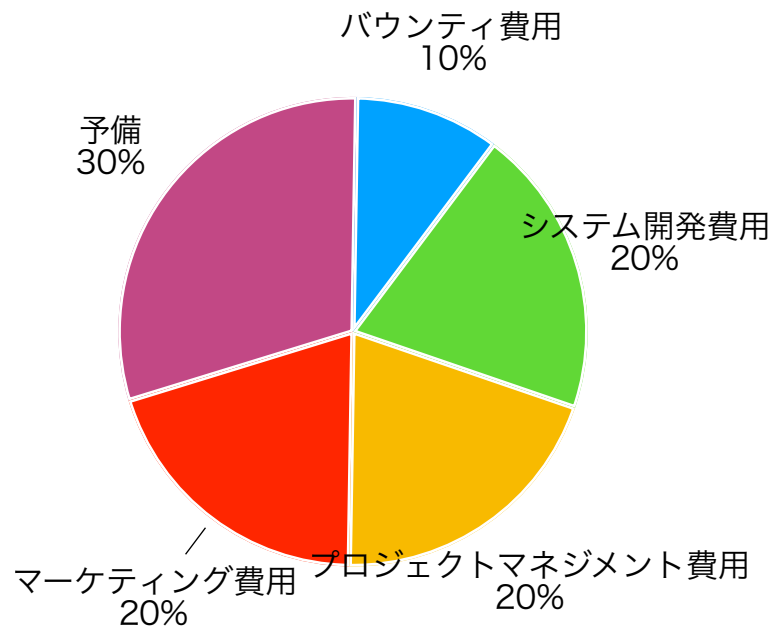
4年目



5年目



## 資金使途



## 内訳

---

バウンティ費用

---

システム開発費用

---

プロジェクトマネジメント費用

---

マーケティング費用

---

予備

## 6.ロードマップ

# ロードマップ

---

## 2019年9月

ホワイトペーパー作成  
Webページ作成  
トークン発行

---

## 2019年10月

プレスリリース

---

## 2019年11月

ウォレットシステム開発開始  
バウンティシステム開発開始  
簡易バウンティ開始

---

## 2019年12月

海外取引所上場

---

## 2020年1月

---

## 2020年2月

ウォレットシステムMVPローンチ  
バウンティシステムMVPローンチ  
バウンティ始動

---

## 2020年3月

---

## 2020年4月

バウンティアクセラレーションプログラム開始

---

## 2020年5月

ウォレットシステム完全版ローンチ  
バウンティシステム完全版ローンチ  
バウンティ参加スポンサー企業への営業開始

---

2020年6月

日本国内の取引所への上場準備開始

---

2020年7月

---

2020年8月

---

2020年9月

---

2020年10月

---

2020年11月

---

2020年12月

---

2021年初頭

日本国内の取引所への上場

## 7.プロジェクトメンバー



---

## 株式会社アヤナスシグレ 代表取締役 川本栄介（マイクロブラッドサイエンス社顧問兼トークンエコノミーエバンジェリスト）



日本のブロードバンド黎明期より楽天、サイバーエージェントなどインターネット企業において主に新規事業を中心に活躍。Slerやスタートアップなどを経て、DMMではオンラインサロンやブロックチェーン関連の新規事業部長を歴任。2018年10月より現職。株式会社アヤナスシグレ代表の川本栄介は、元DMM.comのスマートコントラクト事業部長であり、幻冬舎「新しい経済」の『ゼロからわかるトークンエコノミー』(<https://www.neweconomy.jp/series/zerokara/15731>)などを執筆しながら、仮想通貨・ブロックチェーン領域における専門性を活かし、新たなトークンエコノミー（経済圏）の創出に貢献することを目指す。

---

## 株式会社マイクロブラッドサイエンス 代表取締役 大竹圭



1973年に米国に生まれる。幼少時に帰国、家業である貿易会社に勤務し、世界中の輸出入のビジネスを学び、出生地である米国と日本間のビジネスに興味を持ち渡米、現地で飲食店のオーナーを経て、取引先である最高峰のオーガニック農場CHINO FARMと契約し、健康食材を取り入れたライフスタイルに感銘を受ける。帰国後、健康的な食生活と最先端のフィットネスを組合わせたパーソナルトレーナーとして活動を開始、フィットネス競技であるBest

Body Japanにおいて40歳代のマスターズクラス2013年ノービス大会優勝、日本大会5位の成績を収める。自分の健康状態を知る上で最も重要である血液検査への関心から、東京医科歯科大学との共同研究に参画、その後、東京医科歯科大学発のベンチャー企業マイクロブラッドサイエンス社に招かれ、研究、営業部門を担当し、簡便な微量血液検査を普及させ、トークンエコノミーの実現により、健康をテーマとする社会課題の解決に取り組む。2019年6月より代表取締役を務める。一般社団法人身体運動科学ネットワーク会員。

## 8.提携企業

## 株式会社マイクロブラッドサイエンス

私たちの事業は、社名の通り「微量採血の科学＝わずかな血液が作りだす革新的ヘルスケアシステム」がその基礎になっています。いつも後手に回る健康管理と医療の時代を、情報の分析とフィードバックによる「先回りのヘルスケア時代」へと進化させるのが私たちの理想です。



<http://www.microbs.jp>